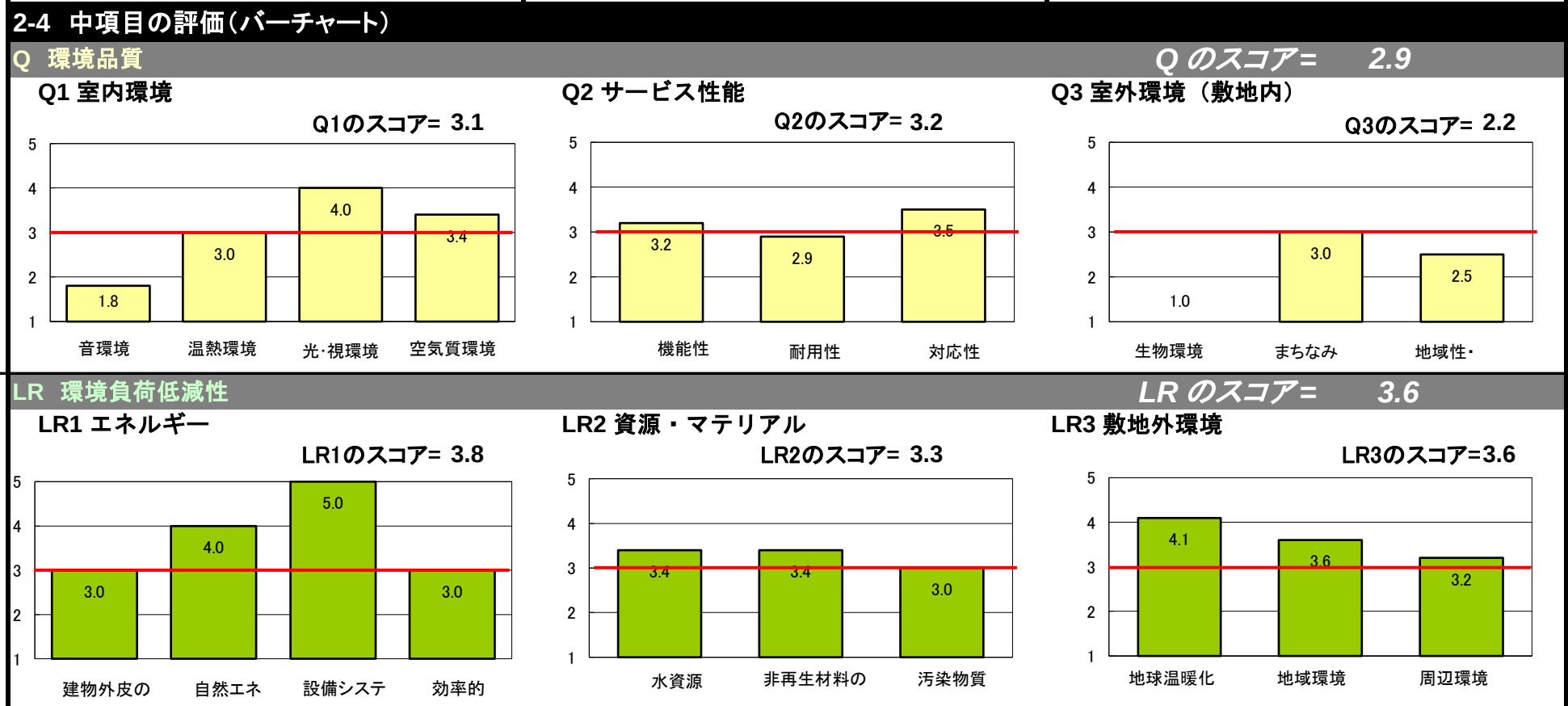
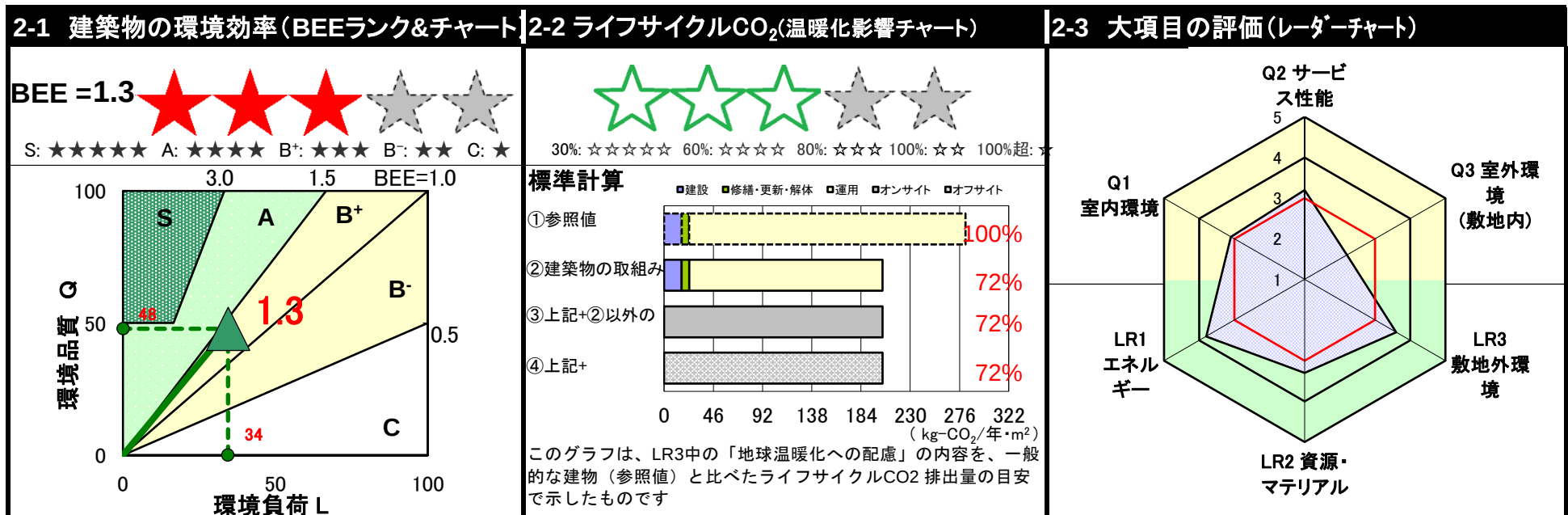
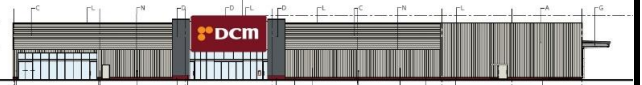


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DCMカーマ 春日井高森台店	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県春日井市高森台10丁目1番1	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年4月21日
敷地面積	13,399 m ²	作成者	此嶋 尚志
建築面積	4,687 m ²	確認日	2022年4月21日
延床面積	4,687 m ²	確認者	此嶋 尚志



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
4.1	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		9.5 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.2	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
		重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境						0.40		-	3.1
1 音環境				0.1	1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		3.0	
1.2 遮音				0.4	1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能					1.0	1.00		3.0	-
2 界壁遮音性能				-	-	-		3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		3.0	-
1.3 吸音				-	1.0	0.20		3.0	-
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.50		3.0	-
2 外皮性能				3.0	3.0	0.17		3.0	-
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.33		-	-
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20		3.0	-
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-
3 光・視環境				0.2	4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用				0.5	5.0	0.50	-	-	
1 昼光率				3.0	-	-		3.0	-
2 方位別開口				-	-	-		-	-
3 昼光利用設備			天窓(トップライト)の設置	3.0	5.0	1.00		3.0	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-		3.0	-
3.3 照度				3.0	-	-		3.0	-
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50		3.0	-
4 空気質環境				0.2	3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆建材を全面的に使用	3.0	4.0	1.00		3.0	-
4.2 換気				0.3	2.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	-
2 自然換気性能				3.0	-	-		3.0	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.50		3.0	-
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50		-	-
2 喫煙の制御			館内全面禁煙の実施	3.0	5.0	0.50		-	-
Q2 サービス性能					-	0.30		-	3.2
1 機能性				0.4	3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	-		3.0	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		3.0	-
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			売場内天井高3.6m以上(4.5m)	3.0	5.0	0.33		3.0	-
2 リフレッシュスペース			レストスペースは売り場面積の3%以上	3.0	4.0	0.33		-	-
3 内装計画				3.0	1.0	0.33		-	-
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			該当項目が標準以上(6)	3.0	4.0	0.50		-	-
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.8	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23		-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔		②		-	2.0	0.23		-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水HIVP:B、汚水排水VP:B、Eは不使用	-	5.0	0.15		-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23		-	-
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		-	-
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20		-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-

3 対応性・更新性					0.2	3.5	0.29					3.5
3.1 空間のゆとり			②	階高3.9m以上(5.6m) 壁長さ比率0.077<0.1	0.3	5.0	0.31					
1 階高のゆとり					5.0	0.60		3.0				
2 空間の形状・自由さ					5.0	0.40		3.0				
3.2 荷重のゆとり					3.0	2.0	0.31		3.0			
3.3 設備の更新性					0.3	3.6	0.38					
1 空調配管の更新性					3.0	3.0	0.17					
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17					
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11					
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11					
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保					3.0	4.0	0.22					
Q3 室外環境(敷地内)								-	0.30			
1 生物環境の保全と創出			独自③			1.0	0.30				1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40				3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30				2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④				3.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性											3.6	
LR1 エネルギー							-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	3.0	0.30				3.0	
2 自然エネルギー利用				天窗(トップライト)の設置	3.0	4.0	0.20				4.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.7	3.0	5.0	0.30				5.0	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20				3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00					
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50					
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50					
集合住宅の評価												
4.1 モニタリング						3.0						
4.2 運用管理体制						3.0						
LR2 資源・マテリアル							-	0.30				3.3
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15				3.4	
1.1 節水				擬音装置・節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.4	0.63				3.4	
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-			2.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21						
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	S造乾式工法で分別が容易、壁内配管により設備との錯綜回避	3.0	5.0	0.25						
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22				3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68					
1 消火剤						-	-					
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50					
3 冷媒					3.0	3.0	0.50					
LR3 敷地外環境							-	0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率72%		4.1	0.33				4.1	
2 地域環境への配慮					0.3	3.6	0.33				3.6	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない			5.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25					
1 雨水排水負荷低減		独自				3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25					
3 交通負荷抑制		独自	敷地内に駐車場を配置、監理車両の駐車場を配置等評価ポイント4			5.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33				3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40					
1 騒音		独自				3.0	1.00					
2 振動		独自				-	-					
3 悪臭						-	-					
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40					
1 風害の抑制						3.0	0.70					
2 砂塵の抑制						1.0	-					
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30					
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たしている			5.0	0.70					
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30					

重点項目スコアシート

実施設計段階

(仮称)DCMカーマ 春日井高森台店

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策					4.1	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10			
② 資源の有効活用					3.2	
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09			
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19			
③ 敷地内の緑化					1.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:9.5%/建物緑化:0%		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア＝重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)DCMカーマ 春日井高森台店

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 商業施設である用途であるため、経済性に配慮しつつ、物販店舗として空間・売場環境・省エネルギーに配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 施設内の快適性を確保するために、空気室環境(F☆☆☆☆建材の全面的な採用)の向上に努めている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 売場の天井高を3.6m以上(4.5m)とし心理性・快適性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高温排熱の放出部を設置しない。屋根掛売場を設けて日影の形成を図っている。 敷地内通路に防犯灯の設置等により防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明を採用し設備の高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省資源への貢献として、建材再利用性(乾式工法による解体時の資源分別容易性)に配慮している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 乗入口を歩行者、お客様用、配送用に分け渋滞緩和に寄与し、地域インフラへの負担抑制(駐車場の確保)に配慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 ・近年問題となっている盛土による土砂災害を回避するため、敷地内に段差をつけ、低い敷地内に高い敷地レベルに合わせた床高の建物を建設し、盛土量を減らした。